

科目名 【英】	キャリアデザイン講座 1 Course of career Design 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	火曜日	時限	7

担当教員	尾崎 貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	-------	-------	-------------------------------------------------------------------------

学習内容	医療系学生としての目標の設定、日々の過ごし方、また医療人としての心構えや、社会に向けての心構え意識付け、一流の選手の考え方や行いを、座学やセッションを通して学ぶ。
到達目標	医療系学生として、どこに出しても恥ずかしくないレベル、かつ卒業後社会人として即活躍できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	その日の授業を、帰宅後の振り返りやワークで不完全な部分を完成させる。
使用教材	配布プリント
留意点 備考	

成績評価	(授業内) 筆記試験 100%
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	メンタル導入部	考え方やメンタルの重要性に気づき、今後の授業に役立てる。	
2	目的、目標セット	個人の目的、目標を明確にし、日常生活のあり方に役立てる。	
3	メンタルブレイン トレーニング 1	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。	
4	メンタルブレイン トレーニング 2	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。	
5	栄養学からみる 内臓の仕組み	栄養学からその栄養がどのように体に使われているのかを知ること、内臓の仕組みなどに興味を持ち学ぶ事ができるようになる。	
6	勉強の仕方 1	自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気づき工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。	
7	勉強の仕方 2	自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気づき工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。	
8	経営の為の知識	独立開業に当たってのお金と経営に関して、その関係性と意味を学び、経営には何が必要かを説明できる。	
9	柔道整復師の仕事 について	自分がなろうとしている、柔道整復師とはどんな仕事をするのかを画像を踏まえながら創造し、自分がなりたい柔道整復師像を具体的に説明できる。	
10	スポーツエンタメ トレーナー 1	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーとはどんな仕事をするのかを説明できる	
11	スポーツエンタメ トレーナー 2	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーには、どんな技術や考えが必要かを説明できる	
12	高齢者からみる柔 道整復師の役割	高齢者の特徴を学び、柔道整復師がどのように関わるべきかを説明できる。	
13	一般手技療法 1	後療法で必要な基礎的な手技療法を行う事が出来る。	
14	一般手技療法 2	後療法で、足を手技療法で施術できることが出来る。	
15	一般手技療法 3	後療法で、臀部を手技療法で施術できることが出来る。	
16			

科目名 【英】	キャリアデザイン講座2 Course of career Design 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	火曜日	時限	6

担当教員	尾崎 貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	-------	-------	-------------------------------------------------------------------------

学習内容	柔道整復師として後療法での手技療法の知識と実技を身に付ける。
到達目標	身体の全身を筋肉を把握し、慰安目的の手技療法が出来るようになる

準備学習 時間外学習	学んだ手技療法を自宅にて家族に施す。一人暮らしの場合は友人に施す。また、学んだ関連部位の解剖学を復習する。
使用教材	副教材として解剖学の教科書を持参して受講する事が望ましい
留意点 備考	

成績評価	実技テスト100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	一般手技の知識と技術	後療法で使用する手技の必要性や考えを説明できる。
2	足裏	手技を用いて足裏の施術が出来る。
3	下腿	手技を用いて下腿の施術が出来る。
4	大腿後面	手技を用いて大腿後面の施術が出来る。
5	臀部	手技を用いて臀部の施術が出来る。
6	前半までの復習	足裏から臀部までの一連の流れを把握し、お互いに評価し満足のいく施術が出来る。
7	背部	手技を用いて背面の施術が出来る。
8	肩甲骨周囲	手技を用いて肩甲骨周囲の施術が出来る。
9	肩	手技を用いて肩の施術が出来る。
10	腰部	手技を用いて腰部の施術が出来る。
11	頸	手技を用いて頸の施術が出来る。
12	前面の下腿	手技を用いて前面の下腿の施術が出来る。
13	前面の大腿	手技を用いて前面の大腿の施術が出来る。
14	試験	実技試験
15	振り返り	前期の実技試験の反省点と向上点の洗いだし
16		

科目名 【英】	栄養学 1 Nutrition 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	木曜日	時限	6
担当教員	前田 美紀子	実務者経験	1989年8月～1998年4月病院に所属。2000年4～10月・2001年10月～2003年4月給食委託会社に所属。栄養士・管理栄養士業務を行う。				
学習内容	(1)人と社会の健康の維持・増進に役立つ栄養学の基礎知識を学ぶ。 (2)スポーツ選手の世代別の健康、また、競技力の向上に対応できる栄養学の基礎知識を学ぶ。 (3)スポーツ外傷・障害の予防と回復に役立つリハビリテーション栄養の基礎知識を学ぶ。						
到達目標	(1)正しい食生活を科学的に理解し、人と社会の健康の維持・増進に対応できるレベルに到達する。 (2)実際にスポーツ選手の栄養サポートに対応できるレベルに到達する。 (3)リハビリテーション栄養の知識を活用し、スポーツ外傷・障害の予防と回復に対応できるレベルに到達する。						
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・解剖生理学との関連を復習する。						
使用教材	配布プリント						
留意点 備考	副教材として生理学の教科書を参考書として活用することが望ましい。						
成績評価	課題プリントの提出。期末試験80%+課題プリント20%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】

1	基礎栄養学1	栄養学オリエンテーション 栄養学の目的と健康とのつながりについて説明ができる
2	基礎栄養学2	栄養と栄養素・非栄養素の違いについて説明ができる 栄養素の分類と働きについて説明ができる
3	基礎栄養学3	三大栄養素のエネルギー代謝（ATP産生システム）について説明ができる
4	スポーツ栄養学1	運動する体の仕組みと必要な栄養素について説明ができる スポーツにおける栄養管理の重要性について説明ができる
5	スポーツ栄養学2	エネルギー収支バランス（消費量と摂取量のバランス）について説明ができる スポーツ選手のエネルギー必要量について説明ができる
6	スポーツ栄養学3	エネルギー収支バランス（消費量と摂取量のバランス）について説明ができる スポーツ選手のエネルギー必要量について説明ができる
7	スポーツ栄養学4	スポーツ選手における糖質の役割と摂取方法について説明ができる
8	スポーツ栄養学5	スポーツ選手におけるたんぱく質の役割と摂取方法について説明ができる
9	スポーツ栄養学6	スポーツ選手における脂質の役割と摂取方法について説明ができる スポーツ選手におけるビタミンの役割と摂取方法について説明ができる
10	スポーツ栄養学7	スポーツ選手におけるミネラルの役割と摂取方法について説明ができる
11	スポーツ栄養学8	スポーツ選手の熱中症予防と水分補給法について説明ができる
12	スポーツ栄養学9	スポーツ選手のシチュエーション別の栄養食について説明ができる
13	スポーツ栄養学10	スポーツ外傷・障害の予防と回復のためのリハビリテーション栄養（栄養管理）について説明ができる
14	スポーツ栄養学11	サプリメントの基本的な考え方について説明ができる アンチ・ドーピングの概要について説明ができる
15	前期試験解説	前期試験の解答・解説
16		

科目名 【英】	栄養学 2 Nutrition 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	土曜日	時限	6

担当教員	柳澤 高道	実務者経験	1980年 4月～1998年9月 兵庫医科大学 歯科口腔外科 1998年10月～2020年3月 宝塚市立病院 歯科口腔外科 2020年 4月～現在 瓦原総合病院 歯科口腔外科
------	-------	-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

学習内容	医療人として必要な栄養の基礎知識を学ぶ。
------	----------------------

到達目標	ヒトにおける五大栄養素の役割と働き、代謝について理解し、栄養摂取の重要性について説明できるようになる。
------	-----------------------------------------------------

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学との関連を復習する。
---------------	-------------------

使用教材	配布プリント
------	--------

留意点 備考	副教材として生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。
-----------	--------------------------------

成績評価	筆記試験（本試験100%）
------	---------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	細胞	元素、細胞 元素、細胞の構造を理解する。	
2	栄養素	栄養と疾患について 5大栄養素、栄養と疾患の関わりを理解するし、説明することができる。	
3	疾患 1	タンパク過剰症、欠乏症 脂質異常症 それぞれの身体における役割を知る。	
4	疾患 2	糖質過剰摂取 ビタミン過剰症、欠乏症 糖尿病、ビタミン過剰症、欠乏症について理解する	
5	疾患 3	ミネラル欠乏 電解質異常について理解する	
6	消化と吸収 1	消化器の働きについて理解し、説明することができる。	
7	消化と吸収 2	消化と吸収について理解し、説明することができる。	
8	消化と吸収 3	消化と吸収について理解し、説明することができる。	
9	栄養素と代謝 1	栄養素、物質代謝について理解し、説明することができる。	
10	栄養素と代謝 2	栄養素、物質代謝について理解し、説明することができる。	
11	水と体液 1	体液と酸塩基平衡について理解し、説明することができる。	
12	水と体液 2	体液と酸塩基平衡について理解し、説明することができる。	
13	水と体液 3	体液と尿の生成について理解し、説明することができる。	
14	骨の代謝	骨の代謝について理解し、説明することができる。	
15	試験解説	試験解説	
16			

科目名 【英】	医学英語 Medical English			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	水曜日	時限	7

担当教員	南 雅子	実務者経験	1989年より医療系専門学校にて医学英語指導/医師、薬剤師、東洋医療治療者、理学療法士、看護師、スポーツ関係者への英語指導
------	------	-------	---------------------------------------------------------------

学習内容	柔道整復師としておさえておきたい基礎医学英語(症状名、身体名、バイタル、骨、筋肉、組織、神経、血液、医療略語、病院各科)と整骨治療、スポーツトレーニングにおける専門用語や診療に使う表現などを学ぶ。
到達目標	医療従事者をめざす上で知っておきたい基礎医学英語を習得した上で、柔道整復におけるさまざまな診療表現などを使えるようにする。

準備学習 時間外学習	医学英語を学ぶ上での、人体や医療における基礎知識を医療や整骨の授業できちんと習得しておくことが望ましい。
使用教材	教科書『MEDICAL ENGLISH COMMUNICATION』(国際教育社) 教材プリント
留意点 備考	実際の治療現場で使えるさまざまな英語資料の提供と使いかたの実践も行う。

成績評価	3回の発表と医療英単語の口頭試験を実施。 前期末試験70%+発表/口頭試験30%で評価する。
------	------------------------------------------------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1	医学英語1	授業内容の解説/柔道整復基礎用語/Ch. 1 受付の会話/英語の名刺/よく使う英会話表現 医学英語の概要を理解するを目標とする。 MA A~B	
2	医学英語2	柔道整復でよく使う症例名/Ch. 2 病院各科の名称、Ch. 3痛みの表現/発表(1)英語の自己紹介 柔道整復治療において必ず知っておきたい症例名を理解できることを目標とする。MA C~D	
3	医学英語3	Ch. 3 痛みの表現、人体名/ペインスケールの活用方/顔の名称/柔道整復関連用語(3) さまざまな痛みの英語表現とペインスケールを有効に使えるようになることを目標とする。	
4	医学英語4	診療所の会話-受付、診察室(ペアワーク)Ch. 4 症状名/症状の表し方を学ぶ 整骨院の受付の会話、診察室での会話を練習する。 MA E~H	
5	医学英語5	発表(2)診療所の会話-受付、診察室(ペアワーク) /Cha. 5, 6内臓の名称、問診に使う表現 整骨院での受付、診察室での会話を次戦で行うことができることを目標とする。 MA I~N	
6	医学英語6	整骨治療におきえる原因、発症時の特定/Ch. 7内科診察室での英語/手指、足指関節の名称 治療に重要な原因や発生時の特定の行いかたのポイントをおさえることを目標とする。MA O~S	
7	医学英語7	医療従事者の緊急時の英語/病院会話のヒント/CH. 9, 10 バイタルサイン、救急/痛みの特定 バイタルサインの習得。緊急時に必要な表現を使えるようにすることを目標とする MA T~Z	
8	医学英語8	柔道整復の診療のための表現/病院会話のヒント/カルテ/CH. 9, 10 外科、検査 診療で必要な表現を使えるようになることを目標とする。 MA カルテ略語	
9	医学英語9	骨の名称/CH. 12 整形外科、整骨院(用語 フレーズ リスニング)/Eメール お礼 お見舞の資料 整形外科、整骨院のリスニング練習により現場の英語になれることを目標とする。	
10	医学英語10	関節可動域/膝靭帯/整骨院のリスニング練習/ch 13, 14 リハビリの用語、表現 可動域や膝靭帯の名称の習得、リハビリ用具や指示の言い方の練習をする。	
11	医学英語11	柔道整復治療の会話(syクリプト提出)/会計、薬/診療のキーフレーズ 柔道整復治療の会話表現を各自考えて作成することによる理解の向上を目標とする。	
12	医学英語12	発表(3)柔道整復での会話/柔道整復で使える表現のまとめ/多言語問診票(英語以外の5カ国用) 柔道整復の治療の会話の発表をすることにより現場で使えることを目標とする。	
13	医学英語13	口頭試験-柔道整復、医学英語関連用語/筋肉、骨の資料配布 柔道整復、医学英語の重要英単語の口頭試験による発話機会と定着を目標とする。	
14	医学英語14	前期末試験対策学習(柔道整復、整骨院の診療用語語およびフレーズ医学英語、医療訳語など) 試験勉強を通して学習内容の復習を目標とする。	
15	医学英語15	前期末試験返却、見直し/整骨院の問診票/柔道整復資料配布/スポーツトレーニングの英語 前期末試験の見直しと、整骨院やスポーツトレーニングで使える資料の解説指導をする。	
16			

科目名 【英】	解剖学 1 Anatomy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	土曜日	時限	7
担当教員	柳澤 高道	実務者経験	1980年 4月～1998年9月 兵庫医科大学 歯科口腔外科 1998年10月～2020年3月 宝塚市立病院 歯科口腔外科 2020年 4月～現在 耳原総合病院 歯科口腔外科				
学習内容	人体の正常構造を学ぶ。まず解剖学を学ぶ上での基礎的事項を学習し、脈管系、内臓系へと知識を深めてゆく。						
到達目標	人体の脈管系・内臓系の種類と仕組みを語ることが出来る。						
準備学習 時間外学習							
使用教材	解剖学 改訂第2版 (医歯薬出版)、配布プリント						
留意点 備考							
成績評価	筆記試験 (対面授業が全講義数の3/5以上実施された場合は本試験80点, 小テスト20点とする。 ただし遠隔授業が2/5以上となった場合は本試験100満点とする。)						

授業計画 【テーマ・内容・目標】

1	解剖学概論 1	人体解剖学概説 細胞の構造を理解し説明できるようになる。
2	解剖学概論 2	人体解剖学概説 組織、発生について理解し説明できるようになる。
3	解剖学概論 3	人体解剖学概説 組織、発生について理解し説明できるようになる。
4	脈管系 1	血管・心臓の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
5	脈管系 2	動脈の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
6	脈管系 3	動脈の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
7	脈管系 4	静脈の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
8	脈管系 5	心脈管系(胎児)・リンパ系の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
9	内臓 1	消化器の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
10	内臓 2	消化器の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
11	内臓 3	呼吸器の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
12	内臓 4	泌尿器の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
13	内臓 5	生殖器の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
14	内臓 6	生殖器の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
15	試験解説	試験解説
16		

科目名 【英】	生理学 1 Physiology 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	木曜日	時限	5

担当教員	橋 吉寿	実務者経験	2003.11-現在 生理学・神経科学講座に在籍
------	------	-------	--------------------------

学習内容	柔道整復師になる上で必要不可欠な全身の正常機能を統合的・包括的に理解するための生理学を学ぶ
到達目標	生理学1では、呼吸・循環など我々が生きていく上で必要な生体機能の基本原則を理解することを目標とする

準備学習 時間外学習	予習は必要ではないが、難解な内容も含まれるため、復習は欠かせないと思われる
使用教材	教科書『生理学』改訂第4版（医歯薬出版）
留意点 備考	副教材としてイラストレイテッド生理学をすすめる

成績評価	期末筆記試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	生理学1	生理学概論 生理学とは何か・ホメオスタシスとは何かを説明することができる。	
2	生理学2	細胞の構成要素を知る 核の構造・細胞小器官について説明することができる。	
3	生理学3	細胞の基本的な機能を知る 細胞膜の機能・細胞内外における分子・イオンの流れを説明することができる。	
4	生理学4	血液の組成と造血機構 血液の構成要素とその成り立ちを説明することができる。	
5	生理学5	血液型・血液凝固・免疫のしくみ 血液の凝固機構、血液型のしくみ、免疫のしくみを説明することができる。	
6	生理学6	心臓の構造・心筋の基本的性質1 心臓の構造について説明することができる。	
7	生理学7	心筋の基本的性質2 心筋の収縮・伝導系について説明することができる。	
8	生理学8	心電図・不整脈について 心電図のしくみ・不整脈について説明することができる。	
9	生理学9	血管の構造と働き 血管の構造・機能と血圧の成り立ちについて説明することができる。	
10	生理学10	局所循環とリンパ・脳脊髄液について 局所血液循環、リンパ・脳脊髄液の組成・機能について説明することができる。	
11	生理学11	循環の調節 血圧のしくみ・制御機構について説明することができる。	
12	生理学12	呼吸器の構造・換気のしくみ 呼吸器の構成要素・換気メカニズムについて説明することができる。	
13	生理学13	ガス交換のしくみ 呼吸器ならびに血液におけるガス交換のしくみについて説明することができる。	
14	生理学14	呼吸調節機構 呼吸調節機構を説明することができる。	
15	試験解説	試験の振りかえり	
16			

科目名 【英】	柔道 1 Judo 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	金曜日	時限	5

担当教員	坂本 美和子	実務者経験	他校(専門学校)を含め週12時間以上、17年間講師を務める
------	--------	-------	-------------------------------

学習内容	初心者が柔道を学ぶための身だしなみから、礼法、怪我防止の為の受身、数本の技の習得、投げられても怪我をしない前回り受身を習得する。
到達目標	三年次、認定実技審査合格基準である『初段相当の実力を有する者』のための基礎を習得し、国家試験の必修に出題される問題に対応できる事を目標とする。

準備学習 時間外学習	自宅でも練習できる礼法は毎日復習を望む。
使用教材	柔道衣、女子(肌の弱い男子)は丸首、白無地のTシャツ
留意点 備考	メリハリを付けて楽しく一生懸命取り組む事を望む。

成績評価	実技試験80%、平常点(授業態度と出欠)20%で評価する。
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	自己紹介と受講のきまり	自己紹介と授業を受けるための心構え、受講の決まりを把握する。	
2	柔道衣の着方と掃除方法	きちんとした柔道衣を着る方法を学び、掃除の方法を学び、出来るようになる。	
3	礼法と受身	立礼・座礼の方法を知る。受身を学び、把握する。後ろ受身が出来るようになる。	
4	礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。後ろ受身、長座からの受身、中腰からの受身が出来るようになる。	
5	礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。後ろ受身、長座からの受身、中腰からの受身、二人組で受身が出来るようになる。	
6	礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。長座からの受身、中腰からの受身、二人組で受身の復習の後、横受身を学ぶ。	
7	礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。二人組で受身、横受身の復習後、移動後ろ受身・横受身が出来るようになる。	
8	礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。横受身、移動後・横受身復習後、前回り受身の方法を学び把握する。	
9	礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。移動後・横受身、前回り受身の回転が出来るようになる。	
10	礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、組み方、動き方、さばき方を学び把握する。	
11	礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、支釣込足を学び、投げる・投げられる事が出来るようになる。	
12	礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、大腰を学び、投げる・投げられる事が出来るようになる。	
13	礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、一本背負投を学び、投げる・投げられる事が出来るようになる。	
14	礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。試験の方法を把握し・練習し、試験が受かるようにする。	
15	試験の解説と立技	立礼・座礼の方法を復習する。試験の解説後、立技の乱取り2分×3人し、柔道の楽しさと苦しさを学ぶ。	
16			

科目名 【英】	柔整総論 1 General Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	月曜日	時限	7

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復学総論（骨折について）を学ぶ。
到達目標	骨折の総論部分を人に説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の教科書を読み込んでおく。
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第7版
留意点 備考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	小テストを1回実施する。【期末試験90%、小テスト10%】
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	人体に加わる力	柔道整復師への到達目標（オリエンテーション）を行い各自設定させる。 人体に加わる力について説明することができる。
2	損傷時に加わる力	損傷時に加わる力について説明できるようになる。
3	骨の形態と機能	骨の形態と機能について説明できるようになる。
4	骨損傷の概要	骨損傷の概要について説明できるようになる。
5	骨折の分類	骨折の分類について説明できるようになる。
6	骨折の症状	骨折の症状について説明できるようになる。
7	骨折の合併症	骨折の合併症（併発症・続発症・後遺症）について説明できるようになる。
8	小児骨折	小児骨折の特徴について説明できるようになる。
9	高齢者骨折	高齢者骨折の特徴について説明できるようになる。
10	小テスト	前回までの範囲の理解度を確認し、もう一度知識の認識を行う。
11	骨折の治癒過程	骨折の治癒過程について説明できるようになる。
12	骨折の予後	骨折の予後について説明できるようになる。
13	骨折の治癒に影響 を与える因子	骨折の治癒に影響を与える因子を説明できるようになる。
14	全範囲の復習	全範囲の理解度を確認し、試験に向けた対策を行う。
15	試験解説	骨折総論で知っておくべき知識の再確認、ポイントを説明できるようになる。
16		

科目名 【英】	柔整総論 2 General Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	水曜日	時限	5

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	柔道整復師の業務範囲を理解し、治療法を実践できるようにする。患者の指導管理・外傷予防を身につける。
到達目標	柔道整復師としての治療法を知り各処置での注意点を理解する。 また、怪我を未然に防ぐための活動について理解し、説明することができる。

準備学習 時間外学習	学んだあと、プリントで復習する。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬）、『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	配布プリントをしっかりと復習すること

成績評価	100%筆記試験
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	解剖学用語	方向と位置を表す用語・人体各部の名称を理解し説明できる。	
2	骨格系総論	人体の区分線を理解し説明できる。	
3	柔道整復師の沿革	沿革と業務範囲の理解し説明できる。	
4	骨折の整復法 1	徒手整復時の配慮・非観血的整復の要点を理解し説明できる。	
5	骨折の整復法 2	整復の一般的原則、屈曲整復・牽引勅圧法の理解し説明できる。	
6	脱臼の整復法 1	脱臼の整復法・非観血整復の要点を理解し説明できる。	
7	脱臼の整復法 2	整復の一般的原則、整復法の理解し説明できる。	
8	軟部組織損傷の 初期処置	RICE処置法の理解し説明できる。	
9	固定法	固定施行時の注意、固定後の配慮を理解し説明できる。	
10	手技療法	手技療法の基本型を理解し説明できる。	
11	手技療法の実際	手技療法を実際試して理解し説明できる。	
12	運動療法	運動療法の基本型の理解	
13	指導管理	患者の環境・スポーツ活動に対する指導管理が理解し説明できる。	
14	外傷予防 1	身体の基礎的状態の評価を理解し説明できる。	
15	外傷予防 2	特異的予防について理解し説明できる。	
16			

科目名 【英】	柔整総論 3 General Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1		前期	曜日	木曜日	時限	5

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	-------	-------	-------------------------------

学習内容	軟部組織の損傷を理解するのに必要な関節構成組織、捻挫、脱臼の分類、発生機序、治癒過程などについて学習する。
到達目標	解剖学の骨筋とリンクできるよう関節の構造、動きのメカニズムを理解し説明することができるようになる。 軟部組織の損傷から治癒に至る経過の理解をし説明することができるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に骨・筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）
留意点 備考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	関節の構造と機能 1	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
2	関節の構造と機能 2	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
3	関節の構造と機能 3	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
4	関節構成組織の損傷 1	靭帯損傷について理解し、説明することができるようになる。
5	関節構成組織の損傷 2	関節損傷の分類、靭帯、関節包の損傷について理解し、説明することができるようになる。
6	関節構成組織の損傷 3	関節軟骨の損傷について理解し、説明することができるようになる。
7	脱臼 1	脱臼の定義、各種分類、症状を理解し説明することができるようになる。
8	脱臼 2	脱臼の合併症、整復障害、経過と予後を理解し説明することができるようになる。
9	筋の損傷 1	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。
10	筋の損傷 2	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。
11	腱の損傷 1	腱組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。
12	腱の損傷 2	腱組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。
13	末梢神経損傷 1	末梢神経損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。
14	末梢神経損傷 2	末梢神経損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。
15	試験解説	前期試験解説を行い忘れていた内容を再確認する。

科目名 【英】	柔整基礎講座 1 Course of Basic Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	水曜日	時限	6

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	脈管系（心臓、動脈、静脈、胎児循環、リンパ系）、内臓系（消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器）の構造を学ぶ。
到達目標	解剖学を好きになり、生理学とリンクさせられるようにする。

準備学習 時間外学習	配布プリントを復習する
使用教材	解剖学 改定第2版
留意点 備考	解剖学は図をイメージできるようにしましょう。

成績評価	前期末試験100%（筆記）
------	---------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	解剖学用語 骨格系総論	解剖学用語・人体の区分 復習
2	解剖学概論 1	細胞内小器官 復習
3	解剖学概論 2	上皮・支持・筋組織 復習
4	解剖学概論 3	人体の発生・三胚葉 復習
5	解剖学コラム	人名のついた用語など
6	脈管系 1	脈管系総論 小循環・大循環 復習
7	脈管系 2	心臓の構造 1 復習
8	脈管系 3	心臓の構造 2 復習
9	脈管系 4	上行大動脈・ウイリス動脈輪 復習
10	脈管系 5	鎖骨下動脈の枝 上肢の動脈 復習
11	脈管系 6	胸大動脈・腹大動脈の枝 復習
12	内臓系 1	消化器系の構造 1 復習
13	内臓系 2	消化器系の構造 2 復習
14	内臓系 3	呼吸器系の構造 復習
15	総復習 4	生殖器の構造 復習
16		

科目名 【英】	柔整基礎講座 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
	Course of Basic Judo Therapy			総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	金	時限	6

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	2015/4~2020/3 接骨院にて勤務
------	--------	-------	-----------------------

学習内容	柔道整復師にとって必要な解剖学、生理学の基礎を学ぶ
到達目標	必要最低限の知識をお互いに説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読む
使用教材	南江堂（解剖学 生理学）資料ノート
留意点 備考	

成績評価	定期試験60% 確認試験40%
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/8	オリエンテーション	ヒトの身体の仕組みを知り、勉学に対する更なる意識付けを行う。
2	4/15	神経系 1	神経細胞の名称および役割について学ぶ。
3	4/22	神経系 2	刺激の伝わり方について学ぶ。
4	5/13	神経系 3	大脳の構造とその役割について学ぶ。
5	5/20	神経系 4	脳幹の構造とその役割について学ぶ。
6	5/27	神経系 5	自律神経系の役割について学ぶ。
7	6/3	神経系 6	反射とは？定義について学ぶ。
8	6/10	神経系 7	反射の種類について学ぶ。
9	6/17	筋生理 1	筋細胞の種類について学ぶ。
10	6/24	筋生理 2	骨格筋の性質について
11	7/1	筋生理 3	筋肉が収縮する仕組みについて学ぶ。
12	7/15	細胞総論	物質の移動方式について学ぶ。
13	7/22	体液	人の水分と細胞成分の違いについて学ぶ。
14	9/2	血液	代表的な血球成分を知り、それぞれの役割について学ぶ。
15	9/30	まとめ	前期の総復習を行い、相手に説明するプレゼンテーション
16	1/0		

科目名 【英】	物理療法学 Physical Therapy Equipment			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	月曜日	時限	6

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	物理療法機器の原理、使用方法、効果、禁忌について学ぶ。
到達目標	物理療法機器の原理、作用などを学び、診療に役立てることができるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	柔道整復学理論編第6版、プリント配布
留意点 備考	50分授業

成績評価	ペーパー試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/11	概要	柔道整復師の治療法・後療法・物理療法の定義、分類について理解する。
2	4/25	安全対策	インフォームドコンセント、禁忌について理解する。
3	5/16	電気療法 1	概要、電気刺激の3要素について理解し、説明できるようになる。
4	5/30	電気療法 2	低周波電気刺激療法について理解し説明できるようになる。
5	6/13	電気療法 3	TENS、低周波電気刺激療法、中周波電気療法の効果、禁忌について理解し説明できるようになる。
6	7/4	寒冷療法 1	概要、伝導冷却法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
7	7/25	寒冷療法 2	対流冷却法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
8	9/12	牽引療法 1	頸椎介達牽引の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
9		温熱療法 1	電動熱療法（ホットパック療法）の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
10		温熱療法 2	パラフィン浴療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
11		温熱療法 3	水治療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
12		温熱療法 4	輻射熱療法（赤外線療法）の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
13		温熱療法 5	変換熱療法（マイクロ波）の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
14		温熱療法 6	超音波療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。
15		温熱療法 7	光線療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。

科目名 【英】	基礎包帯固定学 1 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	月曜日	時限	7

担当教員	岩崎英明、姫将司	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	----------	-------	-------------------------------

学習内容	基本包帯を巻けるようになる。 アルミ副子、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。
到達目標	基本包帯を巻けるようになる。 樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。

準備学習 時間外学習	時間外でも包帯を扱う時間をとって、包帯に手を馴染ませることが必要です。
使用教材	プリント配布
留意点 備考	

成績評価	ペーパー試験100%、実技試験100%
------	---------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	導入 1	実技ガイダンス 包帯の巻取り	
2	導入 2	包帯学を学び、説明できるようになる。	
3	指の包帯 1	隻指帯が巻けるようになる。	
4	指の包帯 2	全指帯が巻けるようになる。	
5	指の包帯 3	指頭包か帯が巻けるようになる。	
6	指の包帯 4	母指上行麦穂帯が巻けるようになる。	
7	指の包帯 5	総指包か帯が巻けるようになる。	
8	指の包帯 6	復習（これまでの包帯法を思い出し、名称を言われただけで目的の包帯法を行うことができる）	
9	評価	中間評価、緊張感を持った状態で患者に巻くことができるレベルに近づけることができる。	
10	手関節の包帯	手関節上行麦穂帯が巻けるようになる。	
11	樹脂副子 1	アルミ副子の基本的な使用方法、注意点を習得する。	
12	樹脂副子 2	アルミ副子の基本的な使用方法、注意点を習得する。	
13	総復習	隻指帯、全指帯、指頭包か帯	
14	総復習	母指上行麦穂帯、総指包か帯、手関節上行麦穂帯	
15	まとめ	試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。	
16			

科目名 【英】	柔整解剖 A Anatomy of Judo Therapy			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	火曜日	時限	3.4
担当教員	小田垣 典行		実務者経験	2003年4月からおだぎ鍼灸整骨院にて従事する。 現在に至る。			
学習内容	骨の基本的構造、骨の名称、骨の各部の名称、各関節の構造を学ぶ。						
到達目標	骨の名称、各部の名称を覚え、体表からその位置を理解し触知することができるレベルに到達し、後期の筋の理解に役立つようにする。						
準備学習 時間外学習	前時間の復習（特に漢字で書けるようにすること）を行う。						
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント						
留意点 備考							
成績評価	授業毎に次回に小テストを実施。期末試験80%+小テスト20%で評価する。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	骨 1	総論（骨の役割・形状・表面に関する用語） 各論（鎖骨） 長骨・短骨など違いを理解し、鎖骨の名称を知り体表から触知できるようになる。
2	骨 2	総論（骨の構造・成長） 各論（肩甲骨） 骨の構造を理解し、肩甲骨の名称を知り体表から触知できるようになる。
3	骨 3	総論（骨の連結） 各論（上腕骨） 骨の成長や縫合の理解し、上腕骨の名称を知り体表からの触知できるようになる。
4	骨 4	総論（関節の種類） 各論（橈骨・尺骨） 関節の構造・種類の理解し、橈・尺骨の名称を知り体表から触知できるようになる。
5	骨 5	各論（手の骨・胸骨） 手根骨の名称と位置関係を知り体表から触知ができ、肋骨切痕と胸骨角の関係を説明できるようになる。
6	骨 6・関節 1	各論（肋骨・上肢の関節） 真肋と仮肋と浮遊肋の違いと上肢の関節の名称とそれに付属する靭帯・関節の動き知り説明できるようになる。
7	骨 7	各論（寛骨・大腿骨・膝蓋骨） 腸骨・坐骨・恥骨・大腿骨の名称の理解と体表から触知できるようになる。
8	骨 8	各論（脛骨・腓骨・足の骨） 脛骨・腓骨・足の骨の名称の理解と体表から触知でき、足根骨の位置を説明できるようになる。
9	骨 9	各論（椎骨の基本的構造・頸椎・胸椎） 椎骨の基本形・頸椎の特別型・胸椎の構造の理解し説明できるようになる。
10	骨 10	各論（腰椎・仙骨・頭蓋骨の分類・側頭骨・後頭骨） 腰椎・仙骨の構造や頭蓋骨の有無、側頭骨・後頭骨の名称の理解し説明できるようになる。
11	骨 11・関節 2	各論（頭蓋骨・骨盤） 下顎骨や頭蓋骨の名称や眼窩を構成する骨や泉門や骨盤を構成する骨や分界線の理解し説明できるようになる。
12	関節 3	各論（股関節から膝関節） 股・膝関節の名称と付属する靭帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。
13	関節 4	各論（足関節・脊柱の連結） 足関節・脊柱と頭蓋の名称と付属する靭帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。
14	関節 5 体表解剖	各論（胸郭の連結） 胸郭の関節の名称と付属する靭帯とと関節の動きを理解し説明できるようになる。 体表解剖P275～280：体表から骨の隆起、突起等を触知できるようになる。
15	テスト解説・筋	テスト解説 骨格筋の総論：起始・停止・動きの理解し説明できるようになる。
16		

科目名 【英】	柔整生理 A Physiology of Judo Therapy A			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	土曜日	時限	5

担当教員	上田 純	実務者経験	2002～2010大学病院、公立病院に勤務、2010～開業
------	------	-------	-------------------------------

学習内容	神経、筋を中心に生理学を学ぶ。動物機能を基礎から学び、運動生理学の理解へつなげる。
到達目標	国家試験の生理学分野の知識を習得する。解剖学、病理学、運動学、一般臨床医学をはじめとした他の科目の学修にあたり、必要な基礎知識を習得する。

準備学習 時間外学習	教科書、配布プリント、及びノートの予習復習を欠かさないこと
使用教材	教科書「生理学 第4版」(南江堂)
留意点 備考	

成績評価	筆記試験を試験期間中に実施し、筆記100%で判定する
------	----------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	筋の生理 1	オリエンテーション、骨格筋の構造について説明ができる。	
2	筋の生理 2	骨格筋の収縮と弛緩について説明ができる。	
3	筋の生理 3	骨格筋と張力、筋電図について説明ができる。	
4	筋の生理 4	心筋と平滑筋について説明ができる。	
5	神経の生理 1	ニューロン、静止膜電位、活動電位について説明ができる。	
6	神経の生理 2	活動電位の伝導、シナプスについて説明ができる。	
7	神経の生理 3	神経伝達物質、神経系の構成について説明ができる。	
8	神経の生理 4	脳の構造、大脳皮質について説明ができる。	
9	神経の生理 5	高次機能(睡眠、覚醒、脳波)について説明ができる。	
10	神経の生理 6	自律神経の分類、分布について説明ができる。	
11	神経の生理 7	自律神経の構成について説明ができる。	
12	神経の生理 8	運動に関係する中枢神経について説明ができる。	
13	神経の生理 9	運動神経と運動単位について説明ができる。	
14	復習	前期のまとめ	
15	試験解説	前期試験解説、振り返り	
16			

科目名 【英】	基礎医学講座 Course of Basic Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	金曜日	時限	7

担当教員	水谷 遼香	実務者経験	鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	骨の各部位を3次元で知り、それぞれの骨の特徴を知り、なぜそのような形を取るのか理解する。骨に付着する筋肉を知り働きを理解する。
到達目標	模型の観察、実習を通じて、骨の部位、筋肉の起始停止を説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の教科書を確認しておく。
使用教材	配布プリント、骨模型、色鉛筆
留意点 備考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験 80% 小テスト20%
------	------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	導入教育・骨総論	この科目が今後に対して重要であることを周知してもらう。 骨の特徴を触れて部位事の特徴を知る。 部位名称の特徴を説明できる。
2	上肢帯	肩甲骨・鎖骨について学習しポイントの理解を深める。
3	自由上肢骨	上腕骨～手指について学習しポイントの理解を深める。
4	自由上肢骨	上腕骨～手指について学習しポイントの理解を深める。
5	上肢の筋①	上肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する
6	上肢の筋①	上肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する
7	中間確認実技テスト①	上肢の骨、筋に対しての確認試験を行う。
8	下肢帯	寛骨について学習しポイントの理解を深める。
9	自由下肢骨	大腿骨～趾骨について学習しポイントの理解を深める。
10	自由下肢骨	大腿骨～趾骨について学習しポイントの理解を深める。
11	下肢の筋	下肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する
12	下肢の筋	下肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する
13	中間確認実技テスト②	下肢の骨、筋に対しての確認試験を行う。
14	総復習	履修した内容について再度確認を行う
15	試験解説	前期末試験の解説
16		

科目名 【英】	キャリアデザイン講座3 Corse Career Design 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	土曜日	時限	6

担当教員	工忠憲正・江頭麻里	実務者経験	1987年4月より2019年3月まで31年間小学校に勤務し授業を行う。昨年度後期より、貴校において「キャリアデザイン講座」を担当している。
------	-----------	-------	-----------------------------------------------------------------------

学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す」「聞く」「書く」が一通りできるように学ぶ。 ・マナー&コミュニケーション単元ではグループワークを通じて、社会人になった際に『使えるマナー・コミュニケーション』を学ぶ。 ・今までのキャリアを振り返り、今後のキャリアをデザインする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として、また職業人として生きるためのスキルを身につけるとともに、実践的な場面でそれらを活用、さらには応用して用いることができるようになる。 ・自らのキャリアをデザインすることができる。

準備学習 時間外学習	次回の学習内容についての予習が必要。授業内で扱った内容の復習をする。
使用教材	配布プリント
留意点 備考	本講義は、実習を交えた授業を実施するため、毎回積極的な参加が求められる。

成績評価	提出物（10%） 授業態度（積極的な発言等）（20%） 課題評価（70%）【各現段階予定】
------	-----------------------------------------------

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	【工忠】 キャリアとは	これからの社会を生き抜くために身に付けるべきスキルを知る。なりたい自分の姿を見つめ、そのために学ぶことの大切さを知る。
2	【工忠】 アサーション	アサーションについて学ぶ。アサーティブな状態で相手と接する話し方ができる。
3	【工忠】 伝え方	話し方の方法としてパートホール法、PREP法を学ぶ。それを用いて自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。
4	【江頭】 マナー①	「挨拶」「身だしなみ」「敬語」について学び、ビジネスマナーを身に付けることができる。
5	【江頭】 マナー②	ケーススタディから電話応対や面接のマナーを身に付けることができる。
6	【工忠】 傾聴スキル	傾聴スキルの基本を学ぶ。相手に対して好意的関心を持ち、安心して話してもらえる聞き方ができる。
7	【工忠】 文章力	テーマに沿って自分の考えを書く。自分の伝えたいことの要点をまとめて正しい文章を書くことができる。
8	【工忠】 クリティカルシンキング	「はてな」を見つけることで、クリティカルシンキングを身に付けることができる。
9	【工忠】 読解力①	A B D読書法を使い、文章を読み取る力を身に付けることができる。
10	【工忠】 読解力②	A B D読書法を使い、文章を読み取る力を身に付けることができる。
11	【工忠】 コンセンサス	正解のない問いをグループで考え、納得解を導くことができる。
12	【工忠】 キャリアデザイン①	今までの夢を振り返り、夢の大切さを知り、夢や将来の目標をもつことができる。
13	【工忠】 キャリアデザイン②	ワーク「ライフライン」を通して、自己理解をさらに深め、これからのキャリアについて考えることができる。
14	【工忠】 ファイナンシャルリテラシー	お金について知ることで、ファイナンシャルリテラシーを身に付けることができる。
15	【工忠】 キャリアデザイン③	人は「なぜ働くのか」について考えることができる。

科目名 【英】	社会福祉学 Social Welfare			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	火曜日	時限	7

担当教員	中川 るみ	実務者経験	大阪保健福祉専門学校、京都府社会福祉協議会、大阪地方検察庁などに勤務し、現在に至る。
------	-------	-------	--------------------------------------------

学習内容	「人が人を助ける」という行為が、社会の制度として位置づけられたのは、数世紀前です。医療従事者の方々が日々の業務を通じて患者やその家族などからさまざまな相談を受けることが多くなりました。対人援助の基本姿勢や各制度の説明の必要性とともに、医療従事者には、特に高い人権意識が求められます。人権と制度を中心に学習します。
到達目標	人権と制度について理解し、柔道整復師としての心構えを身に着ける。

準備学習 時間外学習	
使用教材	コメディカルのための社会福祉概論（講談社）、配布プリント
留意点 備考	

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	社会福祉とは	わが国の人口問題と課題について考え、説明することができる。	
2	社会福祉の歴史 (1)	慈善事業の背景について考え、説明することができる。	
3	社会福祉の歴史 (2)	社会事業と貧困対策について考え、説明することができる。	
4	社会福祉基礎構造 改革	社会保障改革の理解について考え、説明することができる。	
5	社会保険 (1)	社会保険の種類について考え、説明することができる。	
6	公的扶助	生活保護の現状について考え、説明することができる。	
7	子ども福祉	子どもに関わる法制度について考え、説明することができる。	
8	障害者福祉	障害者総合支援法と虐待防止について考え、説明することができる。	
9	高齢者福祉 (1)	高齢者を取り巻く状況について考え、説明することができる。	
10	高齢者福祉 (2)	高齢者を対象とした法制度について考え、説明することができる。	
11	介護保険制度	制度の概要について考え、説明することができる。	
12	社会保障制度 (1)	医療保障について考え、説明することができる。	
13	社会保障制度 (2)	年金保障について考え、説明することができる。	
14	社会保障制度 (3)	雇用保険・労災保険について考え、説明することができる。	
15	試験解説	前期試験解説	
16			

科目名 【英】	解剖学 2 Anatomy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	土曜日	時限	7
担当教員	柳澤 高道	実務者経験	1980年 4月～1998年9月 兵庫医科大学 歯科口腔外科 1998年10月～2020年3月 宝塚市立病院 歯科口腔外科 2020年 4月～現在 瓦原総合病院 歯科口腔外科				
学習内容	国家試験に準じた学力を身につける。						
到達目標	内分泌系、神経系、感覚器の構造を理解し、答えることができる。						
準備学習 時間外学習	復習により内容理解を深めるようにする。						
使用教材	解剖学 改訂第2版 (医歯薬出版)						
留意点 備考							
成績評価	小テスト20%、本試験80%で評価する。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	内分泌 1	内分泌 (A内分泌器の働き B各種ホルモンの働き) 内分泌の構造と各種ホルモンの働きを説明できる	
2	内分泌 2	内分泌 (A内分泌器の働き B各種ホルモンの働き) 内分泌の構造と各種ホルモンの働きを説明できる	
3	神経系 1	神経系の基礎 神経系の区分と働きについて説明できる	
4	神経系 2	脳 脳の形態と機能について説明できる	
5	神経系 3	脳、脊髄 脳の形態と機能および脊髄の構造について説明できる	
6	神経系 4	脊髄 脊髄の構造について説明できる	
7	神経系 5	末梢神経 (脳神経、脊髄神経) 末梢神経を答えることができる	
8	神経系 6	末梢神経 (脳神経、脊髄神経) 末梢神経を答えることができる	
9	神経系 7	末梢神経 (脳神経、脊髄神経) 末梢神経を答えることができる	
10	神経系 8	末梢神経 (自律神経) 末梢神経を答えることができる	
11	感覚器 1	外皮 外皮について説明できる	
12	感覚器 2	視覚 視覚器について説明できる	
13	感覚器 3	聴覚 聴覚器、について説明できる	
14	感覚器 4	味覚、嗅覚 味覚器、嗅覚器について説明できる	
15	試験解説	後期試験解説	
16			

科目名 【英】	生理学 2 Physiology 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	水曜日	時限	5

担当教員	橋 吉寿	実務者経験	2003.11-現在 生理学・神経科学講座に在籍
------	------	-------	--------------------------

学習内容	柔道整復師になる上で必要不可欠な全身の正常機能を統合的・包括的に理解するための生理学を学ぶ
到達目標	生理学1では、消化・排泄など我々が生きていく上で必要な生体機能の基本原則を理解することを目標とする

準備学習 時間外学習	予習は必要ではないが、難解な内容も含まれるため、復習は欠かせないと思われる
使用教材	教科書『生理学』改訂第4版（医歯薬出版）
留意点 備考	副教材としてイラストレイテッド生理学をすすめる

成績評価	期末筆記試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	尿の生成と排泄1	腎臓の構造と機能を説明することができる。	
2	尿の生成と排泄2	糸球体ろ過ならびに尿細管での再吸収機構を説明することができる。	
3	尿の生成と排泄3	尿の排泄機構をを説明することができる。	
4	栄養と代謝経路1	生体に必要な栄養素を説明することができる。	
5	栄養と代謝経路2	基礎代謝の概念を理解し、エネルギー代謝について説明することができる。	
6	消化と吸収1	消化器の構成要素を知り、消化液の分泌機序を説明することができる。	
7	消化と吸収2	消化器各器官での消化液ならびに消化ホルモンの作用機序を説明することができる。	
8	消化と吸収3	栄養素ごとの消化・吸収のメカニズムを説明することができる。	
9	体温調節のしくみ 1	体温の生理的意義を学び、熱産生について説明することができる。	
10	体温調節のしくみ 2	熱放散機構を理解し、体温調節機構についても説明することができる。	
11	内分泌総論	内分泌系の概要を理解する。	
12	内分泌各論1	視床下部・下垂体ホルモンについて説明することができる。	
13	内分泌各論2	甲状腺・副腎皮質ホルモンについて説明することができる。	
14	内分泌各論3	副腎髄質・膵臓ホルモンについて説明することができる。	
15	試験解説	試験の振りかえり 試験での問題点を振りかえる□	
16			

科目名 【英】	柔道 2 Judo 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	金曜日	時限	5

担当教員	坂本 美和子	実務者経験	他校(専門学校)を含め週12時間以上、17年間講師を務める
------	--------	-------	-------------------------------

学習内容	初心者が柔道を学ぶための身だしなみから、礼法、怪我防止の為の受身、数本の技の習得、投げられても怪我をしない前回り受身を習得する。
到達目標	三年次、認定実技審査合格基準である『初段相当の実力を有する者』のための基礎を習得し、国家試験の必修に出題される問題に対応できる事を目標とする。

準備学習 時間外学習	自宅でも練習できる礼法は毎日復習を望む。
使用教材	柔道衣、女子(肌の弱い男子)は丸首、白無地のTシャツ
留意点 備考	メリハリを付けて楽しく一生懸命取り組む事を望む。

成績評価	実技試験80%、平常点(授業態度と出欠)20%で評価する。
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	礼法と受身 1	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、袈裟固が出来るようになる。	
2	礼法と受身 2	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、袈裟固が出来るようになる。	
3	礼法と受身 3	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、横四方固が出来るようになる。	
4	礼法と受身 4	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、縦四方固が出来るようになる。	
5	礼法と受身 5	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、上四方固が出来るようになる。	
6	礼法と受身 6	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技のルールについて説明することができる。	
7	礼法と受身 7	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技(腹臥位)の相手の返し方が出来るようになる。	
8	礼法と受身 8	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技(腹臥位)の相手の返し方が出来るようになる。	
9	礼法と受身 9	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技(腹臥位)の相手の返し方が出来るようになる。	
10	礼法と立技 1	礼法、移動受身、前回り受身、立技、連続技の為の大内刈が出来るようになる。	
11	礼法と立技 2	礼法、移動受身、前回り受身、立技、大内刈から大腰(釣腰)が出来るようになる。	
12	礼法と立技 3	礼法、移動受身、前回り受身、立技、大内刈から一本背負投が出来るようになる。	
13	礼法と立技 4	礼法、移動受身、前回り受身、立技、大内刈から大外刈が出来るようになる。	
14	礼法と立技 5	後期試験の内容を把握、習得することが出来る。	
15	紅白試合	試合の礼法を習得し、昇段審査の実際を学ぶ。	
16			

科目名 【英】	柔整基礎講座3 Course of Basic Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	木曜日	時限	6

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	解剖学、生理学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。
到達目標	解剖生理学の神経系の構造を把握し、それぞれの特徴を理解し説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第2版（医歯薬出版）、生理学 改定第4版（南江堂）
留意点 備考	毎回の授業範囲の問題を解けるように復習をする。

成績評価	期末試験70%（筆記）、確認試験30%（筆記）
------	-------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	消化器	消化器の解剖学的な名称を知る。全体像を理解し、基本構造を説明できるようになる。	
2	消化器	舌の支配神経、胃、金運動について知り、説明できるようになる。	
3	消化器	小腸の解剖学的な名称、働き、特徴を知り、説明できるようになる。	
4	消化器、消化腺	結腸の特徴、消化液の分泌を知り、説明できるようになる。	
5	消化と栄養素	栄養素の基本的なところを知り、消化の流れ、消化酵素について説明できるようになる。	
6	消化器と内分泌	消化器に関係するホルモンを知り、説明できるようになる。	
7	肝・胆道系	肝臓・胆嚢の解剖学的な特徴を知り、説明できる。	
8	肝・胆道系	胆嚢・肝臓のはたらき、胆汁の作用について知り、説明できる。	
9	泌尿器	腎の構造について知り、説明できる。	
10	泌尿器	尿道の男女差、機能について知り説明できる。	
11	泌尿器	腎機能（再吸収・分泌について）知り、説明できる。	
12	泌尿器	尿細管の再吸収・分泌について知る。また再吸収・分泌に関わるホルモンを知り説明できるようになる。	
13	泌尿器	排尿反射について知り、説明できるようになる。	
14	総復習	消化器系・泌尿器系の演習問題を行い、知識の定着を図る。	
15	総まとめ	全範囲の復習を行い、分からない箇所を確認し理解できる。	
16			

科目名 【英】	柔整基礎講座 4 Course of Basic Judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	金曜日	時限	6

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	------------------------------------------------------------

学習内容	正常な人体機能を学び、基礎知識を身につける。
到達目標	1. 人体機能について学んだ内容を自分の言葉で説明することができる。 2. 各項目のポイントを習得、整理して他者に伝えることができる。

準備学習 時間外学習	柔整生理Bの講義内容の復習は必須である。説明できるよう整理しておくこと。
使用教材	PC・配布資料・生理学改訂第4版 彼末一之 著（南江堂）
留意点 備考	自ら学ぶ姿勢をもつようにすること

成績評価	前期末試験100%（筆記）
------	---------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	筋生理 1	筋組織【筋の分類と特徴】 骨格筋、心筋、平滑筋の特徴を説明できる。
2	筋生理 2	筋収縮【興奮収縮連関】 興奮収縮連関を説明できる。
3	感覚 1	視覚器【視覚器の解剖】 眼球構造を説明できる。
4	感覚 2	視覚【光受容のしくみ①】 光量調節と遠近調節の機序を説明できる。
5	感覚 3	視覚【光受容のしくみ②】 光受容と視覚伝導路を説明できる。
6	感覚 4	聴覚・平衡器【解剖】 聴覚器の構造を説明できる。
7	感覚 5	聴覚・平衡器【音と加速度の検出】 音と加速度の受容について説明できる。
8	感覚 6	嗅覚と味覚【嗅上皮、舌】 嗅覚と味覚の伝導路を説明できる。
9	生殖 1	性決定と性分化【遺伝的性とは】 遺伝的性と性分化について説明できる。
10	生殖 2	男性生殖【精子形成】 精子形成について説明できる。
11	生殖 3	女性生殖【性周期】 月経周期と卵巣周期を説明できる。
12	生殖 4	女性生殖【妊娠と分娩】 受精から分娩までを説明できる。
13	生殖 5	骨生理【骨組織】 骨組織について説明できる。
14	生殖 6	骨生理【カルシウム代謝】 Ca代謝に関わるホルモンを説明できる。
15	総まとめ	後期内容の補填および復習 後期内容を説明することができる。
16		

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 1 Clinical Judo Therapy Basic 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	木曜日	時限	7

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を上肢を中心として部位別に学び、整復法、固定法などの治療法を学ぶ。
到達目標	臨床現場でよく遭遇する骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	小テストを行うため、前回授業の復習を行っておくこと。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	副教材として柔道整復学実技編教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	顎関節脱臼 1	【解剖、概説、前方脱臼】 顎関節の構造、付着する筋を理解し、転位や症状について説明できる。
2	顎関節脱臼 2	【後方脱臼、側方脱臼】 前方脱臼との違いについて説明することができる。
3	肩関節脱臼 1	【解剖、概説、前方脱臼】 肩関節の構造を理解し、分類や症状について説明できる。
4	肩関節脱臼 2	【前方脱臼の実技】 前方脱臼の整復法や固定法を知り、反復性脱臼に移行しやすい理由を説明できる。
5	肩関節脱臼 3	【前方脱臼以外】 後方、下方、上方脱臼の特徴について説明ができる。
6	肩関節部の軟損 1	【筋、腱の損傷】 腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷について説明ができる。
7	肩関節部の軟損 2	【スポーツ損傷 1】 ベネット損傷、SLAP損傷について説明ができる。
8	肩関節部の軟損 3	【スポーツ損傷 2】 肩峰下インピンジメント症候群、リトルリーガー肩について説明ができる。
9	肩関節部の軟損 4	【不安定症】 ルーズショルダーについて説明ができる。
10	肩関節部の軟損 5	【末梢神経障害】 肩甲上神経と腋窩神経の構造と絞扼障害について説明ができる。
11	肩関節部の軟損 6	【その他の肩軟損】 五十肩について説明ができる。
12	肘関節脱臼 1	【解剖、概説、後方脱臼】 後方脱臼の発生機序について説明ができる。
13	肘関節脱臼 2	【前方脱臼、側方脱臼、肘内障】 成人と小児の肘の構造の違いを理解し、肘内障について説明ができる。
14	口頭試問	基礎各論 1 で学習した項目の口頭試問を行い、合格する。
15	試験解説	前期試験解説
16		

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 2 Clinical Judo Therapy Basic 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	水曜日	時限	7

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る
------	-------	-------	--------------------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	肩甲骨骨折①	肩関節部の筋肉などの構造、肩甲骨骨折の分類について説明できる。
2	肩甲骨骨折②	肩甲骨の各骨折の症状などの特徴について説明できる。
3	上腕骨骨折①	解剖頸、骨頭、大結節、小結節の骨折について説明できる。
4	上腕骨骨折②	近位骨端線離開、外科頸骨折について説明できる。
5	上腕骨骨折③	外科頸骨折について説明できる。
6	肩関節脱臼①	前方脱臼、後方脱臼について説明できる。
7	肩関節脱臼②	下方脱臼、上方脱臼、反復性肩関節脱臼について説明できる。
8	肩関節脱臼実技	整復法（ゼロポジション、スティムソンなど）を行うことができる。
9	肩関節部の軟部組織損傷①	筋・腱損傷（腱板断裂・上腕二頭筋長頭腱損傷）について説明できる。
10	肩関節部の軟部組織損傷②	スポーツ損傷（ベネット損傷・SLAP損傷）について説明できる。
11	肩関節部の軟部組織損傷③	スポーツ損傷（肩峰下インピンジメント症候群・リトルリーガー肩）について説明できる。
12	肩関節部の軟部組織損傷④	不安定症、末梢神経障害について説明できる。
13	肩関節部の軟部組織損傷⑤	その他の疾患（五十肩など）や注意すべき疾患について説明できる。
14	口頭試問	口頭により肩部の障害について説明できる。
15	試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論3 Clinical Judo Therapy Basic 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	木曜日	時限	5

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	柔道整復学各論を胸・背部、腰部、上腕部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の復習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）・配布プリント
留意点 備考	

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	胸・背部の損傷	胸・背部の解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状について説明できる。
2	胸部の骨折（肋骨・胸骨）	胸部の骨折の発生機序・症状について説明できる。
3	胸椎の骨折	胸椎の骨折の発生機序・症状について説明できる。
4	胸椎の脱臼	胸椎の脱臼の発生機序・症状について説明できる。
5	その他の疾患について	その他の疾患について説明できる。
6	注意すべき疾患について	注意すべき疾患について説明できる。
7	腰部の損傷	腰部の損傷について説明できる。
8	腰椎の骨折	腰椎の骨折について説明できる。
9	腰椎の脱臼	腰椎の脱臼について説明できる。
10	腰部の軟部組織損傷	腰部の軟部組織損傷について説明できる。
11	上腕部の損傷（解剖と機能）	上腕部の損傷について説明できる。
12	上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折について説明できる。
13	上腕部の軟部組織損傷	上腕部の軟部組織損傷について説明できる。
14	口頭試問	口頭により胸・背部、腰部、上腕部の障害について説明できる。
15	試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
	Clinical Judo Therapy Basic 4			総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	金	時限	6

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	2015/4~2020/3 接骨院にて勤務
------	--------	-------	-----------------------

学習内容	外傷に関する解剖およびメカニズムから骨折と脱臼について学ぶ。
到達目標	講義で学んだ内容について第三者に説明出来るようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	1/0	鎖骨解剖	鎖骨の骨名称について説明できるようになる。
2	1/0	鎖骨解剖	鎖骨に付着する軟部組織について説明できるようになる。
3	1/0	鎖骨機能解剖	鎖骨の運動機能について説明できるようになる。
4	1/0	鎖骨骨折	鎖骨骨折の概説と発生機序について説明できるようになる。
5	1/0	鎖骨骨折	鎖骨骨折の症状、合併症、後遺症について説明できるようになる。
6	1/0	鎖骨骨折	鎖骨骨折の整復法について説明できるようになる。
7	1/0	鎖骨骨折	鎖骨骨折の固定法について説明できるようになる。
8	1/0	肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼の概説と発生機序について説明できるようになる。
9	1/0	肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼の症状、合併症、後遺症について説明できるようになる。
10	1/0	肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼の整復法について説明できるようになる。
11	1/0	肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼の固定法について説明できるようになる。
12	1/0	胸鎖関節脱臼	胸鎖関節脱臼の概説と分類を説明できるようになる。
13	1/0	胸鎖関節脱臼	胸鎖関節脱臼の症状および固定法、予後について説明できるようになる。
14	1/0	口頭試問	当時間で学習した内容について口頭試問を行う。
15	1/0	後期まとめ	鎖骨の役割を振り返り、再度メカニズムを考える。
16	1/0		

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論5 Clinical Judo Therapy Basic 5			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	水曜日	時限	6

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る
------	-------	-------	--------------------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	オリエンテーショ ン	柔道整復学を学ぶ意義について 授業の目的を答えられる
2	股関節損傷	股関節の軟部組織損傷1 各障害の特徴を説明できる
3	股関節損傷	股関節の軟部組織損傷2 各障害の特徴を説明できる
4	股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 その他疾患を知る
5	股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 大腿骨頭すべり症、大腿骨頭壊死症の注意点を説明できる
6	股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 変形性股関節症の注意点を説明できる
7	大腿部損傷	大腿部損傷 大腿部の筋肉の解剖を説明できる
8	大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の特徴を説明できる
9	大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の分類を説明できる
10	大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の治療上の注意点を説明できる
11	大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷1 大腿部打撲について説明できる
12	大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷2 大腿四頭筋肉ばなれについて説明できる
13	大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷・注意すべき疾患 ハムストリングス肉離れの理解及び骨化性筋炎を説明できる
14	総復習	総復習 授業内容を再点検する
15	試験解説	解説・復習 後期内容を振り返り、ポイントを説明できる

科目名 【英】	基礎包帯固定学 2 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	岩崎英明、 姫将司	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	-----------	-------	-------------------------------

学習内容	基本包帯を巻けるようになる。 三角巾、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。
到達目標	基本包帯を巻けるようになる。 樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。

準備学習 時間外学習	時間外でも包帯を扱う時間をとって、包帯に手を馴染ませることが必要です。
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	ペーパー試験100%、実技試験100%
------	---------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		三角巾	三角巾で提肘できるようになる。
2		肘の包帯	肘関節集合亀甲帯が巻けるようになる。
3		副子作成 1	各種骨折、脱臼の固定に必要な副子を厚紙で作成する。
4		副子作成 2	各種骨折、脱臼の固定に必要な副子を厚紙で作成する。
5		枕子作成	各種骨折、脱臼の固定に必要な枕子を綿花、ガーゼで作成する。
6		肩の包帯 1	肩関節上行麦穂帯の巻き方を知る。
7		肩の包帯 2	肩関節上行麦穂帯が巻けるようになる。
8		肩の包帯 3	肩関節下行麦穂帯が巻けるようになる。
9		樹脂副子 1	プライトン副子の基本的な使用方法を学ぶ。
10		樹脂副子 2	プライトン副子の基本的な使用方法を学ぶ。
11		特殊包帯法 1	デゾー包帯第 1 帯、第 2 帯
12		特殊包帯法 2	デゾー包帯第 3 帯、第 4 帯
13		特殊包帯法 3	デゾー包帯第 3 帯、第 4 帯
14		総復習	三角巾、肘関節離開・集合亀甲帯、肩関節上行麦穂帯の復習練習を行う。
15		まとめ	試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。
16			

科目名 【英】	臨床実習 1 Clinical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	月曜日	時限	5

担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで長嶋整形外科勤務
------	-------	-------	-----------------------

学習内容	45時間中30時間分を行う。 大関節の評価を行い施術の基礎を学ぶ。
到達目標	柔道整復師学科に入って良かったと思えるようになり、次年度に向け 勉学の意欲をわかす。

準備学習 時間外学習	筋肉の理解が必要となるため起始停止作用は各自で理解する。
使用教材	プリント資料
留意点 備考	抜き打ち小テストを実施

成績評価	授業評価、筆記テスト
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】				
1		臨床実習について	臨床実習の意義を理解する。また評価法に興味を持たす	90分
2		SFMAについて	SFMA（評価法）の目的・ルールを覚える。	90分
3		頸椎評価法	頸椎の評価を知る。	90分
4		頸椎評価法	頸椎の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
5		頸椎治療法	頸椎の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
6		肩評価法	肩関節の評価を知る	90分
7		肩評価法	肩関節の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
8		肩治療法	肩関節の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
9		多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作評価を知る	90分
10		多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
11		多分節屈曲治療法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
12		多分節伸展評価法	体幹の伸展動作評価を知る	90分
13		多分節伸展評価法	体幹の伸展動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
14		多分節伸展治療法	体幹の伸展動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
15		筋肉テスト	筋肉名を問いかけ起始停止を答える。作用は自分で動作を行う	90分
16				

科目名 【英】	臨床実習 1 Clinical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	月曜日	時限	6

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	45時間中15時間分を行う。 整骨院業務を理解し外部臨床実習につなげられるようにする
到達目標	臨床現場で行われている治療法を理解できるようにする

準備学習 時間外学習	特になし
使用教材	柔道整復学・理論編を用意すること
留意点 備考	KCで参加すること

成績評価	出席点
------	-----

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		臨床実習の心得	臨床実習とは何かを理解する。
2		電気療法 1	低周波療法を体験し効果を理解する。
3		電気療法 2	S S P 療法を体験し効果を理解する。
4		電気療法 3	干渉波療法を体験し効果を理解する。
5		電気療法 4	EMS、マイクロカレントを体験し効果を理解する。
6		寒冷療法	伝導冷却療法（アイスパック）、気化冷却法（コールドスプレー）を体験し効果を理解する。
7		牽引療法 1	腰部牽引を体験し効果を理解する。
8		牽引療法 2	頸部牽引を体験し効果を理解する。
9		光線療法	レーザー光線療法を体験し効果を理解する。
10		温熱療法 1	伝導熱療法（湿性ホットパック、乾性ホットパック）を体験し効果を理解する。
11		温熱療法 2	伝導熱療法（パラフィン浴療法）を体験し効果を理解する。
12		温熱療法 3	伝導熱療法（赤外線療法）を体験し効果を理解する。
13		温熱療法 4	輻射熱療法（マイクロ波療法）を体験し効果を理解する。
14		温熱療法 5	輻射熱療法（超音波療法）を体験し効果を理解する。
15		手技療法	手技の一連の流れを体験し効果を理解する。
16			

科目名 【英】	柔整解剖B Anatomy of Judo Therapy			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	火曜日	時限	3.4.5

担当教員	小田垣 典行	実務者経験	2003年4月からおだぎ鍼灸整骨院にて従事。現在に至る。
------	--------	-------	------------------------------

学習内容	筋の名称、起始、停止、支配神経、作用と生体観測と生体計測を学ぶ。
到達目標	筋の名称、起始、停止、支配神経を覚え、体表からその位置を理解することによって、筋の作用（動き）を理解する。

準備学習 時間外学習	前時間の復習と前期に行った骨の各部の名称の復習を行う。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント
留意点 備考	

成績評価	授業毎に小テストを実施する。期末試験80%+小テスト20%で評価する。
------	-------------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	筋 1	上肢帯の筋 上肢帯の筋の起始・停止・支配神経を知り、作用を説明できる。
2	筋 2	上腕の筋 前腕の屈筋 上腕の筋や前腕の屈筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
3	筋 3	前腕の屈筋・伸筋 前腕の屈筋・伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また手根管を通過するものを説明できる。
4	筋 4	前腕の伸筋 前腕の伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また伸筋支帯の6つのトンネルを理解し、通過するものを説明できる。
5	筋 5	手の筋 内寛骨筋 手の筋や内寛骨筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
6	筋 6	下肢帯の筋（外寛骨筋） 外寛骨筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また筋裂孔、血管裂孔、梨状筋上孔・下孔を理解し、通過するものを説明できる。
7	筋 7	大腿の屈筋・伸筋・内転筋 大腿の屈筋・伸筋・内転筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。またハムストリングスを説明できる。
8	筋 8	大腿の内転筋 下腿の伸筋 大腿の内転筋や下腿の伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。またスカルパ三角・鷲足を説明できる。
9	筋 9	下腿の伸筋・腓骨筋・屈筋 下腿の伸筋・腓骨筋・屈筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
10	筋 10	足の筋 顔面筋 咀嚼筋 浅頸筋 舌骨上・下筋 咀嚼筋や浅頸筋や舌骨上・下筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
11	筋 11	深頸筋 胸部の筋 深頸筋、胸部の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。吸気と呼気に分けることができる。
12	筋 12	胸部の筋 腹部の筋 胸部の筋、腹部の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。吸気と呼気に分けることができる。また横隔膜の孔を通過するものを説明できる。
13	筋 13	浅・深背筋 浅・深背筋の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
14	筋 14・骨	頭蓋底 頸部の三角 体表解剖P280~296 頭蓋底の孔に通る血管・神経や頸部の三角を説明できる。また体表から筋を触知、確認できる。
15	テスト解説 映像解剖	テスト解説 映像解剖 画像診断の装置を理解し説明できる。
16		

科目名 【英】	柔整生理B Physiology of Judo Therapy B			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	土曜日	時限	5

担当教員	上田 純	実務者経験	2002年6月～2010年3月大学病院、公立病院に所属、2010年4月以降自身が代表するクリニックで歯科医師として診療に従事。
------	------	-------	-----------------------------------------------------------------

学習内容	医療従事者として相応しい生理学の知識、思考能力を獲得する。
到達目標	人体の機能を理解することで、生理学のみならず、他の臨床系科目等も理解できるようになる。また医療従事者として必要な知識を身につけることができる。

準備学習 時間外学習	授業で学んだことは復習する。プリント、ノートだけではなく、該当する範囲の教科書も熟読すること。
使用教材	教科書「生理学 第4版」(南江堂)
留意点 備考	解剖学の関連部分も教科書等でチェックしておくこと

成績評価	筆記試験を試験期間中に実施し、筆記100%で判定する
------	----------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	筋①	骨格筋、平滑筋、心筋の違いについて説明できる。	
2	筋②	興奮収縮連関について説明できる。	
3	筋③	筋と張力、長さの関係について説明できる。	
4	筋④	平滑筋、心筋について説明できる。	
5	感覚①	感覚の分類について説明できる。	
6	感覚②	一般感覚の種類、内容について説明できる。	
7	感覚③	嗅覚、味覚について説明できる。	
8	感覚④	目の生理学的機能、視覚について説明できる。	
9	感覚⑤	聴覚、前庭感覚について説明できる。	
10	生殖①	発生学的観点から、生殖系について説明できる。	
11	生殖②	男性生殖器とその機能について説明できる。	
12	生殖③	女性生殖器とその機能について説明できる。	
13	骨①	骨の構造と成長について説明できる。	
14	骨②	カルシウム代謝と内分泌、ビタミンとの関係について説明できる。	
15	試験返却	試験返却【後期で学んだ全範囲】 筋、感覚を中心とした生理学について説明できる。	
16			

科目名 【英】	コンディショニングトレーナー講座 Course of Conditioning Trainer Skill			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	金曜日	時限	7

担当教員	栗若 伸一	実務者経験	2006年4月～2021年9月現在 桃山学院大学アメリカンフットボール部 2019年6月～2021年9月現在 Vリーグ DENSU AIRYBEES S&Cトレーナー
------	-------	-------	----------------------------------------------------------------------------------------

学習内容	現場におけるトレーナー活動に必要な基礎知識と実技能力の習得
到達目標	柔道整復師及びトレーナー業務実施時に活用できる基本的な知識と技能が身についている

準備学習 時間外学習	特になし
使用教材	決まった教科書が無いので、必要資料をプリントにて配布
留意点 備考	

成績評価	出席&平常点30% / レポート70%
------	---------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	トレーナーとは トレーナーの役割	トレーナーの職業区分、必要な知識、技術、行動と倫理について説明ができる。	
2	トレーニングの基礎/ 筋力トレーニング実技 1	基礎筋生理学/自重による基本的筋力トレーニングの実技を行うことができる。	
3	トレーニングの基礎/ 筋力トレーニング実技 2	基礎筋生理学/自重による上肢筋力トレーニングの実技を行うことができる。	
4	アスレティック トレーナーとは/傷害 評価	アスレティックトレーナーの職業区分、必要な知識、技術、行動と倫理について足関節、膝関節における傷害評価について説明ができる。	
5	トレーニングの基礎/ 筋力トレーニング実技 3	基礎筋生理学/自重による下肢筋力トレーニングの実技を行うことができる。	
6	体幹トレーニングの 理論と実技	体幹トレーニングの基礎知識 体幹強化の為にトレーニング実技を行うことができる。	
7	機能的動作とト レーニング	ファンクショナルトレーニングの考え方について説明ができる。	
8	動作評価と機能改善 1	基礎解剖学/姿勢分析/FMS、SFMAを用いた動作分析について説明ができる。	
9	動作評価と機能改善 2	基礎解剖学/分析を基に行うファンクショナルトレーニングの処方について説明ができる。	
10	ストレッチ実技	スタティックストレッチ及びペアストレッチの実技を行うことができる。	
11	ウォーミングアップ 実技	ダイナミックストレッチ、ムーブメントプレパレーションの定義と実技を行うことができる。	
12	ストレッチポール 実技	ストレッチポールの利用方法及び実技を行うことができる。	
13	栄養学の基礎	栄養に関する基礎理論 体重の増量と減量について説明ができる。	
14	熱中症と脳振盪	スポーツ現場で実施される予防と対策/評価方法の実際について説明ができる。	
15	最新のトレーニ ングアプローチにつ いて	PRI、DNS、VBT、動作学の情報について説明ができる。	
16			